

日本海洋学会 2016 年度第 5 回幹事会議事録

日時：2016 年 11 月 28 日（月）13：30～17：10

会場：パレスサイドビル マイナビルーム 9F-D

出席：日比谷会長、神田副会長、市川、小埜、小畑、川合、齊藤、鈴木、東塚、原田、山中、  
毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 審議事項

(1) 議事録確認（川合幹事）

2016 年度第 4 回幹事会ならびに 2016 年度秋季評議員会の議事録案を確認し、承認した。評議員会議事録は、評議員 ML で配信・確認する。

(2) 入退会について（小畑幹事）

2016 年 8～9 月の入退会を承認した。入会 21 名、退会 10 名、ご逝去 1 名で、2016 年 9 月末現在の会員数 1679 名。

(3) シンポジウムの後援・協賛等について（小畑幹事）

JpGU セッション 17 件、その他の 4 件の共催について承認した。

(4) 募集・推薦などの依頼について（小畑幹事）

公募案内、推薦依頼、シンポジウム・講演の案内について、ML で周知したことが報告され、承認した。

(5) 「海の研究」特集号発行及び特集号特別編集委員の委嘱について（市川編集委員長）  
特集号「潮汐変動と関連する海洋、気候及び水産資源変動過程の解明」の刊行と担当特別編集委員 2 名の委嘱を承認した。

(6) 「海の研究」編集委員会委員の交代について（市川編集委員長）

木津編集委員が退任することとなり、谷本会員を新編集委員として承認した。また、査読コメントの扱いと編集者の役割について確認した。

(7) 三賞選考の細則変更の意見と今後の運営方法について（小畑幹事）

三賞選考委員会より、日本海洋学会学会賞・岡田賞・宇田賞細則第 1 条 3 の文中にある「啓蒙」を「啓発」に変更することが提案され、承認した。次回評議員会に諮ることとなった。

また、三賞選考委員会より春季大会を 5 月の JpGU に合流して行うことになったため、第一回賞選考委員会を 3 月の合同シンポジウムの際に開催してはどうかとの提案があった。選考委員は春の評議員会で承認されるものであるため、JpGU 大会以前に開催するには細則を変更する必要がある。JpGU 会期中の開催ではどのような問題があるのか、委員会に確認することとなった。

(8) 次期における追加幹事の承認について（小畑幹事）

会長指名による幹事の追加について、評議員会 ML で仮承認していただいた後、春

季評議員会において正式な承認を得ることとなった。

(9) JpGU 西田賞ならびにフェロー推薦について (原田幹事)

JpGU の西田賞ならびにフェローについて、海洋学会員を推薦してはどうかとの提案があり、学会長名で推薦を行うこととなった。

2. 報告事項

(1) 会長 (日比谷会長)

以下の報告があった。

9月19日に大型研究計画についてのヒアリングがあったが、審査の結果、重点大型研究計画には選出されなかった。

JpGU 大会のセッションプログラム編集が行われ、海洋学会関連のセッションをまとめて組むことができた。セッション数は255件(例年の40%増)で、5100件程度の講演が予想されている。

新たに立ち上がった海洋生物学研究会のウェブサイトが公開された。

IAPSO-IAMAS-IAGA 合同大会が2017年8~9月にケープタウンで開催される予定で、まもなく要旨の投稿が開始される。

(2) 副会長 (神田副会長)

東京海洋大学で3月に開催する海洋生物学合同シンポジウムについて、会場費支払いに関する手続きを進めること、3月に会議などで東京海洋大学を利用する場合は早めに知らせしてほしいことがアナウンスされた。

(3) 庶務 (小畑幹事)

12月から1月にかけての選挙などの予定表が提示され、確認した。

(4) 会計 (齊藤幹事)

海洋学会の書類等荷物の保管料軽減のため、保管倉庫の変更と移動を行い、移動経費の支出を承認したことが報告された。

(5) 編集

① JO (石坂編集委員長代理日比谷会長)

発行状況について説明があった。投稿数が少ないが、特集号が多かったことと、掲載が有料になったことが影響している可能性がある。特集セクション1報を審査中であること、Retraction Watch で JO の誤掲載が報告されたこと、2報目のオープンアクセスが掲載されたこと、悪質な剽窃があり、Springer と対応を検討中であること、イランで Journal of Oceanography という英語名の雑誌が出版されていることが分かり、こちらも Springer と対応を検討中であることが報告された。

② 海の研究 (市川編集委員長)

第25巻6号を発行したこと、特集号論文などはあるが、一般投稿数は少ないことが報告された。

③ JOS ニュースレター（津田編集委員長代理日比谷会長）

会長談話と会員の海洋立国推進功労者受賞の紹介が掲載されることが報告された。  
また、会員 2 名の叙勲について次号で紹介することが提案された。

(6) 研究発表（鈴木幹事）

JpGU に合流して行う春季大会に関して、以下について確認した。

・各種会議の会場について

JpGU より、海洋学会の総会会場は無料で借りられることを確認している。幹事会は JpGU の会場・会期にとらわれず開催予定である。会合用の会場（会議室）の予約が必要となるのは、賞選考委員会（3 賞で一部屋）、評議員会（総会の前日）、海の研究と JO の編集委員会、教育問題研究会であり、沿岸海洋研究会委員会は未定である。部屋の予約は講演申し込み締切後の 2 月下旬に可能となる。総会と評議員会の会場については、原田大会委員長から JpGU のウェブから申し込むとともに、同事務局に電話で確保する。その他の会議室については、事務局が取りまとめてウェブから申し込む。

・総会の開催日時について

大会期間の前半の方が参加人数が多く、海洋学会関係のセッションも主に前半に予定されている。またウィークデー半ばとなる大会終盤は多くの会員の総会出席が難しいと懸念される。このことから、総会の開催はこれまで予定・周知していた最終日より、前半がよいのではないかという意見があり、1 月の幹事会でさらに議論して決定する。総会の日時について、会員へのアナウンスは 3 月頭に行く。また、委任状送付は通常は 2 週間前であるが、NL の発送に合わせて 3 月に送付する。

・その他

大会開催の会計収支が従来と大きく変わることになるので対応の検討が必要である。

若手会員には JpGU で開催される若手キャリアパスセッション等に参加し、他学会との交流の場としてもらうよう推奨する。

企業・団体会員に JpGU 合同大会の案内を再度送付する必要がある。

(7) 選挙（山中幹事）

選挙管理委員の委嘱について、メール審議で承認されたことが報告された。

選挙に関する今後のスケジュールを確認した。12 月 2 日開票、12 月 19 日確定、1 月下旬に NL で周知する予定。

(8) 広報（原田委員長）

3 月にサイエンスカフェを開催する予定であること、海の出前事業 1 件申し込みがあったこと、JpGU で展示ブース 2 机分を申し込んでおり、海洋学会関係のセッションプログラムの配布、困ったときの相談窓口とする予定であることが報告された。

(9) 海洋環境問題研究会（鈴木幹事）

研究会の会長交代の承認は評議員会に諮ることになっており、各担当幹事から研究会に周知するよう案内があった。その際には春季評議員会が開催される5月の承認でよいか、3月中にメール審議が必要かを確認する必要がある。

(10) 教育問題（市川幹事）

サイエンスアゴラでトークショーを行ったこと、「一家に一枚 WG」で、ポスター原案について議論していることが報告された。

(11) JpGU（原田幹事）

海洋学会からのセッションは主に2会場で大会期間の最初の3日間（土・日・月）に集中して開催されることが報告された。また、日曜日に行われる高校生のポスター発表は必見であると紹介された。

(12) 震災対応（神田副会長）

原子力学会の学協会連絡会に関して、原稿依頼やシンポジウムの開催計画に関する連絡が来ていることが報告された。

(13) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事代理日比谷会長）

大型研究計画の結果について、他の学会との情報交換を行う予定であることが報告された。

(14) 若手対応（神田副会長）

海洋未来技術研究会による海外渡航援助について、1件を採択したことが報告された。

JpGU に合流して開催する春季大会では若手との交流会は行わず、秋季大会で行うこと、JpGU 大会では他の学会の若手との交流を深めるよう情報を流す予定であることが報告された。

(15) 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野委員長代理小笠幹事）

英語版の原稿が40%程度集まり、今年度中に公開する予定であること、和文の第二版（抜けていた箇所を一部加えたもの）を公開予定であることが報告された。

(16) 海洋生物学会（齊藤幹事）

学会ウェブサイトに入会等の案内を掲載したこと、これまでに40数名が入会したこと、3月のシンポジウムの内容についてはこれから検討することが報告された。

次回幹事会は2017年1月開催予定。日程調整は後日。